

沖縄のヘビについて リュウキュウアオヘビの生態

うるま市立与那城小学校
4年 辻野悠理

1. 目的・動機

(1) 目的



リュウキュウアオヘビ (*Cyclophiops semicarinatus*)

有鱗目ヘビ亜目ナミヘビ科アオヘビ属 の飼育下における生態観察を行う。

- ・ どうしてミミズが主食なのか？
- ・ どれくらいミミズを食べるのか？
- ・ どのくらいの期間で脱皮するのか？

(2) 動機

沖縄には、たくさんのヘビがいます。固有種として、ハブ、ヒメハブ、ガラスヒバア、ハイの有毒のヘビもいるが、アカマタ、リュウキュウアオヘビ・アマミタカチホヘビなど無毒のヘビもいる。それぞれのヘビは、ネズミやカエル、トカゲなどを主食としているが、リュウキュウアオヘビ(*Cyclophiops semicarinatus*)は、ミミズが主食と言われており、ミミズだけを食べて約100cmまで成長する事が不思議に思った。

2. 材料・方法

(1) 材料

- ・ リュウキュウアオヘビ・エサ(ミミズ) ・飼育ゲージ・ピンセット・水入れ
- ・ 温度計・湿度計・メジャー・電子秤

(2) 研究の手順・方法

① 大小のリュウキュウアオヘビを採取、飼育する。

- ・ 大きさ、個体差を比較するため
- ・ 1匹だけだと死んでしまうと研究が進まなくなってしまうため
- ・ 飼育ゲージ(ガラスゾーン 30-WH サイズ : W310×D310×H200mm)



- 床材は掃除をしやすいように新聞紙を使用する。
- 飼育環境は熱がこもりやすく、クーラーの影響が少ない玄関に設置する。

②エサ(ミミズ)を与える。



- たくさん食べてもらうためにタッパー上部を切り取り、土を入れてその中にミミズを入れる。毎日小さい個体には 10g 以上、大きい個体には 15g 以上与えた。(できるだけ自然の状態にしたかったのでミミズを入れて放置した)
- ミミズの保管場所は玄関横の直射日光が当たらない風通しの良い場所で発泡スチロールの中で飼育する。

③1 日にミミズを何匹、何グラム食べるのか電子秤で計測し毎日記録をつける。



④どれくらいの期間で脱皮するのか観察する。

⑤脱皮したらへびの重さと長さを電子秤とメジャーで計測する。

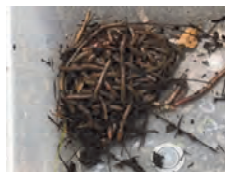


(3) 調査観察場所

飼育観察場所：沖縄県うるま市自宅(玄関)、

採取地(リュウキュウアオヘビ)：沖縄県国頭郡国頭村(比地、県道2号線安田)

採取地(ミミズ)：沖縄県国頭郡国頭村(安波林道)



4. 考察・まとめ

(1) 飼育観察してわかったこと

- ① だいたい、毎日ミミズを食べている。
- ② 昼間に活動している事が多く、夜はほとんど隠れて動かない。
 - ・ お昼にミミズを食べているところをよく見かけた。夜は食べない。
 - ・ 毎日、夜に観察記録をつけていたが毎回、新聞紙の中でじっとして動かない。
- ③ ミミズの種類で好き嫌いがある。ミミズの採取場所から約3種類のミミズが取れるが、側溝の中で草木の根っこで絡みついている種類のミミズ(画像①)はほとんど食べない。落ち葉の下に隠れているミミズ(画像②)の種類をよく食べるが、一番の好物はヤンバルオオフトミミズ(画像③)だった。(特に大きい個体)



画像①



画像②



画像③

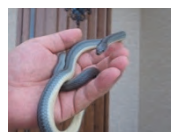
- ④ 脱皮前は絶食し、眼も体も白くなる。



通常時①



通常時②



脱皮前①



脱皮前②

- ⑤ 季節の変わり目の時は、食事の量がおちる、食べない事もあった。(10/12頃)
 - ・ 小さい個体の3回目の脱皮は、少ない食事量で脱皮した。
 - ・ 大きい個体は、2回目の絶食期間に入ったが1回目より長く8日目で脱皮した。
- ⑥ 脱皮までの期間、脱皮前の絶食期間と気温との関係
 - ・ 気温の高い時期は、脱皮までの期間と脱皮前の絶食期間は短い気温が低くなってくると脱皮までの期間、脱皮前の絶食期間が長くなった。

リュウキュウアオヘビは、昼間にミミズをよく食べる事がわかった。また、ミミズの好き嫌いがあることを初めて知りました。どうして、ミミズだけを食べて成長できるのかは、わからなかったけど、大きい個体と小さい個体で食べる量が変わることがわかりました。

5. 参考文献

著者：大谷勉 「ポケット図鑑 日本の爬虫両生類 157」株式会社文一総合出版